

香り豊かな雨乞のユズ ～歴史ある柴田町の特産物～



柴田町^{あまご}雨乞地区のユズは、国内で最北限に自生するものと言われ、現在は5軒の生産者が雨乞の柚子生産組合を組織し、日当たりの良い斜面に植えられた約400本以上を農薬不使用で栽培している。

雨乞のユズには逸話がある。500年以上前に行脚修行をしていた行者がこの地に住むようになった。ある日、行者が病気を患った際に、世話をしてくれた住民へのお礼として渡したユズの種が栽培のきっかけと言われている。

「歴史あるものを地域で育てている実感がある。園地を次の世代に残していきたい」と語るのは定年退職後に実家のユズ栽培を引き継いだ同組合長の加藤^{としひこ}壽彦さん（68）。



当地区のユズは色と香りが良く、皮が厚いことから人気が高い。しかし、購入できる場所が少ないことから、毎年の収穫時期に開催される販売会では、生果を求める多くの人々で賑わう。

加藤組合長は「生果を購入できる時期は限られている。香りの良さを実際に味わってもらいたい」と話す。